

森喜朗 東京オリンピック・パラリンピック組織委員会会長の 「女性差別」発言に関する声明

— あらゆる公職から森喜朗氏の辞任を求めます —

2021年2月5日

公人による性差別をなくす会

代表 永井よし子

森喜朗会長の JOC 評議委員会における「女性がたくさん入っている理事会は時間がかかる」発言は、許容できない「女性差別」です。この発言が、団体におけるボードに女性が参加し発言することに関して行われたことに対し、謝罪だけでこれを済ませることは全く許容できません。

それが「他人から聴いた」ことか「自身の認識」であるかを問わず、このような発言を公人が行い、これを口先だけの「謝罪」で終わらせることは、社会における差別を根絶するうえで有害です。直ちに森氏のあらゆる公職からの辞任を求めます。

この発言が、女性の公的場面における発言に関して行われたことを、私たちはきわめて深刻であると受け止めています。なぜならこの発言は、日常の社会的相互関係のなかで、他者に横柄な態度をとり、無意識に差別的な言動を吐くマイクロアグレッションの根底にあるものの考え方に通底しており、たとえば、男女の力関係のなかで、「話の最中に口を挟む」「その人がいるのに存在を無視する」「本人の前でその人の代弁をする」「間違っただけで呼ぶ」などの行動を正当化し、女性の発言を封じて、結局のところ女性の存在意義を無化することにつながるからです。これは男女のあらゆる分野における尊厳を基礎とする平等に反するのみならず、民主主義の根本を侵すものです。そして、日本の経済と政治が男性によって支配されているという批判が国際的に向けられるなか、政府ならびにオリンピック・パラリンピック組織委員会が謝罪会見のみでこの発言を不問に付すことは決して許されません。

男女平等と民主主義の基盤を損なう「無意識のバイアス」は、育つ環境や所属集団のなかで無意識のうちに脳に刻み込まれ既成概念・固定観念になっていくもので、人間の認識・記憶・判断・表現の過程で行われるショートカットに影響を与え、とくに昇任人事や女性の活動に大きな否定的影響を与えています。森氏の発言の根底には、こうした無意識のバイアスが働いています。

このような行動を社会から根絶することが求められている時代であることを十分認識し、日本の未来のために、強く辞任を求めます。